

知財業務のAI変革：NEC事例から学ぶ3段階ロードマップ

知財部門がAIエージェントを導入し、業務効率化と戦略的高度化を両立するための具体的なステップ。



第1段階（0～6ヶ月）： 基盤整備と高適合タスクの導入

先行調査や翻訳など、AI適合度の高い業務からセキュアな環境で導入を開始します。文書検索や定型書式作成は、現時点で最も高い導入効果と成熟度が見込めます。

第2段階（6～18ヶ月）： 半自律タスクの試行と品質管理

明細書案作成等を試行し、工数削減だけでなく拒絶理由通知率などの品質KPIで管理します。AIが素案を生成し、人間が検証・修正を行う「半自律型」が現実的な解となります。

第3段階（18～36ヶ月）： AI オーケストレーターへの転換

常時競合監視を実現し、部員は実行者からAIを導く戦略立案者へと役割を変えます。法的責任を伴う最終判断や高度な交渉・経営報告は、人間が担うべき中核業務です。